# 移動するマイノリティの生き延びの為の親密圏生成に関する実証的研究

**Empirical Study of the Intimate Sphere Formed by Migrant Minority in the Struggle for Survival**

**岡 真理**（京都大学大学院人間・環境学研究科 教授）

【国内参加者】

大石　和男（京都大学大学院農学研究科 助教）
崔　　博 憲（聖トマス大学 非常勤講師）
坂梨　健太（京都大学大学院農学研究科 博士後期課程）
佐々木　祐（京都大学大学院文学研究科グローバル COE 研究員）
村 川　　淳（京都大学大学院農学研究科 博士後期課程）

【海外参加者】

中田　英樹（グァテマラ国立サン・カルロス大学歴史学部 客員教授 / グァテマラ社会科学振興協会 招待研究員）
PAREDES, Pedro（グァテマラ国立サン・カルロス大学農学部 教授）
NGIMA, Godefroy（カメルーン国立ヤウンデ大学社会学部 講師）

【ねらいと目的】

グローバリゼーションのもと、ヒト、モノ、カネ、情報の移動が激化する今日、これまでとは位相の異なるマイノリティによる周縁部が新たに生み出されている。本研究は、より多様化複雑化した理由によって移住・移動を余儀なくされた人々（合法・非合法移民や難民）がどのように日々を生きているのか、その動態を解明することを目的とする。

移動した人々が直面する様々な障害に柔軟に対応したテンポラルな共同体、移民たちが生き延びるために形成する都市部周辺における共同体やネットワークを、本研究では「親密圏」として設定する。周縁社会においてマイノリティは、不断の移動と出会いのなかで、エスニックな結びつき、親族関係、同郷意識、宗教的・言語的紐帯のみならず偶発的な関係などから生成したツキアイ・コネ・ツテを、最大限に活用することで生き延びている。しかし、こ

うした関係資本をもとに形成される親密圏は、矛盾なくマジョリティ中心の公共圏と接続されるわけではない。マイノリティたちは、公共の名のもとに正当化される様々な暴力とどのように交渉し、また知恵や工夫を動員することで、いかに社会の構成員としての権利と正当性を獲得しているのだろうか。

本研究は実証的な分析を通じて、親密圏と公共圏の矛盾をはらんだ関係を浮き彫りにする。それは、周縁社会に生きるマイノリティに限定された問題ではなく、現代のあらゆる社会に共有されるものでもある。このような視座から、私たちの生きる社会における、共生のためのより豊かな内実と有効性をもった理論装置を構築することを、本研究は全体的な課題とした。

【活動の記録】

＜フィールド調査＞

2008 年 12 月 26 日～2009 年 1 月 7 日　メキシコ合衆国・チアパス州
マヤ系先住民自治区における共同性に関する調査（佐々木）

2009 年 1 月 8 日～1 月 18 日　ニカラグア共和国・マナグア
先住民共同体の土地利用に関する資料収集（佐々木）

2009 年 2 月 1 日～3 月 4 日　カメルーン共和国
南部地域における農村出身者の都市生活に関する調査（坂梨）

2009 年 2 月 12 日～18 日　ペルー・プーノ県
ティティカカ湖（アンデス高地）先住民共同体における調査（村川）

2009 年 2 月 19 日～28 日　ペルー・アレキパ県
「マタラニ」（海岸地域）村落における調査（村川）

2009 年 2 月 15 日～28 日　レバノン
パレスチナ難民キャンプにおける聞き取り調査（岡）

2009 年 3 月 7 日～15 日　タイ・チェンライ県
タイ山岳民族の移住労働に関する調査（崔）

2009 年 3 月 22 日～25 日　日本・香川県

日本におけるタイ人農業労働者への聞き取り調査（崔）

2009 年 7 月 22 日～8 月 1 日　タイ、チェンライ

移住労働者となった北部対山岳民族が生成させる息の美のための親密圏に関する資料収集（崔）

2009 年 9 月 3 日～7 日　香川県高松市

外国人研修生･実習生を受け入れている農家でタイ人やラオス人研修生などから聞き取り調査（崔）

2009 年 10 月 5 日～11 月 12 日　コンゴ民主共和国・エクアトリ州

従来のフィールドであるカメルーンとの比較のために聞き取り調査（坂梨）

2009 年 11 月 15 日～2010 年 1 月 31 日　カメルーン共和国・ジャー・ロボ県

環境団体の保護活動と現地住民との関係に関する聞き取り調査、資料収集

2009 年 12 月 2 日～11 日　グァテマラ共和国、サン・ペドロ・ラ・ラグーナ村

先住民素朴画に書きこまれた「親密圏」に関する聞き取り調査（中田）

2010 年 2 月 1 日～7 日　フランス、モンペリエ市

シラッド（国際農業開発センター）にて旧植民地フランス時代の農業政策に関する文献収集

2010 年 3 月 3 日～31 日　ペルー、プーノおよびイスライ近郊

出稼ぎ先での生き延びのための親密圏の生成に関する聞き取り調査（村川）

＜研究会、ワークショップなど＞

国内における研究会およびワークショップ

2008 年 11 月 20 日

京都大学にて研究会「親密圏／公共圏概念の再検討」

2009 年 1 月 16 日

京都大学にて第一回ワークショップ（親密圏／公共圏をめぐる共同研究の意義）

2009 年 2 月 7 日

京都大学にて研究会「映像における移住者の表象」

2009 年 2 月 20 日

京都大学にて第二回ワークショップ（研究発表と議論）

国際学会発表

（坂梨健太）Biological Conservation and Local Communities' Needs: Lessons from Field Studies on Nature-Dependent Societies, "Cacao Production and the Use of Forest Resources in Southern

Cameroon”　2009 年 3 月 19 日

（坂梨健太）SCCR (The Society for Cross-Cultural Research), The 39th International Workshop of Recent Research on Congo Basin Hunter-Gatherers and Farmers, Kenta Sakanashi, “The Use of Hunter-Gatherers’ Labor by Farmers in Central Africa: A Case Study of the Relationship, Fang and Baks in Southern Cameroon”, The University of New Mexico, New Mexico, 17th Feb. 2010.

グァテマラにおけるワークショップ

（中田英樹）“Comunidad para sobrevivir en Guetemala de las minoritarias”, en La Casa de la Cultura Maya, 1ra avenida norte, no.37, Antigua, Guatemala, 9 de enero de 2009, de 5:30 a 9:00) y en la universidad de San Carlos de Guatemala, 17 de enero, 2009.

ワークショップ、『グァテマラにおけるマイノリティたちの生き延びの為の共同体』

第一回、1 月 9 日、アンティグア市、「マヤ文化のための会館」

第二回、1 月 17 日、グァテマラ・シティ、サン・カルロス大学

第三回、3 月 21 日、グァテマラ・シティ、サン・カルロス大学

招待講演

（中田英樹）Nakata, Hideki. 2009. “Diez años de Primavera y Nacimiento de Antropología de Acción”, el 7 de agosto, 2009, en el salón de AVANCSO, en la Ciudad de Guatemala.
（『グァテマラ「春の十年」と「行動人類学」の誕生、2009 年 8 月 7 日、アヴァンクソ（グァテマラ社会科学振興協会）会議室、グァテマラ・シティ）

**【成果の概要】**

まず 2008 年度において本国際共同研究班は、主にフィールド調査による資料・実例の収集にあたった。研究代表者の岡真理によるレバノンのパレスチナ難民キャンプにおける調査をはじめ、村川のペルー先住民や、佐々木のメキシコ南部チアパス集での先住民村落調査など、アジア、アフリカ、中東、ラテンアメリカ各地および日本国内においてインテンシブな現地調査を実施し、移住と労働からみた親密性と共同性の多様な局面に関するデータを収集した。

同時にメンバー各々が現地にて研究ネットワークを構築することにも力を注いだ。グァテマラにおいては中田が中心となって国立サンカルロス大学教員らと研究グループを形成し、マヤ系先住民共同体における移住労働の実態に関する定期的なワークショップを始めた。坂

梨は本 GCOE の第一回次世代国際 WS での報告・議論を踏まえ、カメルーン共和国ヤウンデにおいて開催された国際ワークショップにおいて発表を行なった。また、日本に滞在しているメンバーは、各自の関心に従って理論的な研究会や、一般向けワークショップなどを展開した。その代表例として、「映像における移住者の表象」を中心テーマに、映像作品の体系的な分析作業を開始した。

2009 年度も、日本国内における研究会やワークショップあるいは、本研究班の中軸的活動である現地調査は継続して展開した。なかでも崔の香川県における外国人研修生の受け入れ実態に関する調査は、データ収集に加えて強い信頼関係が現地との間に築かれ、活動が急速に展開し始めている。また坂梨は、21 年 5 月に論文を『アフリカ研究』に発表し、翌年 2 月には米国ニュー・メキシコでの国際学会（The Society for Cross-Cultural Research）にて口頭発表、それらを総合して 22 年 3 月の京都大学アジア・アフリカ地域研究科が中心となった『森棲みの社会誌』（京都大学出版会）にて分担執筆を担当した。また、グァテマラでのワークショップの成果については、シルベル・エリアス博士と中田が共編著となって『先住民農民の親密な社会と国民国家統合　21 世紀グァテマラにおける発展をめぐる試論集』として、グァテマラにてスペイン語で公刊される。

本研究班の二年にわたる活動は、このようにまだ途上のものが数多く存在するが、国内の外国人労働者や「第三世界」と呼ばれる地域が、どのような新たな「公共圏」のもとで生き延びることを余儀なくされているかに関する議論の土台は、精密に形成されたと考える。